

第189号 発行日 平成24年10月1日

合格通信

今
月
の
名
言

完璧な人間などいない。
理想通りにことが運ぶこともほとんどない。
そんな私たちが自分にもっとも情け深くあ
ろうとするなら、
思い通りにならなかったことをあまり深刻
に考えないことだ。
—アレン・クライン—(『笑いの治癒力』)

これは、塾生のみなさんと、特進スクールを訪れてくれた、小中高校生の皆さんとお問い合わせ
いただいたお父さん、お母さんに向けて、勉強法や受験に役立つ話題をお届けする情報誌です。

子どものタイプ別対処法⑦

保護者面談をしているとよく「何でうちの子はやる気を出してくれないのだろう」そう言
ってくる親はとても多いのです。けれども子どもはひとりひとり性格が違いますし、これま
で育ってきた環境も違います。やる気が出せない理由は様々です。なかなか勉強に入ってい
かない子どもたちには、どのような悩みがあり、どんな問題があるのでしょうか。



一致しない親の願いと子どもの気持ち

多くのお母さんたちは「なんとかしてあの学校に入れたい」「成績を上げてやりたい」と望ん
でいます。そして自分がそう思っているから、子どももそう思っているはず、とひとりよがり
に思っています。しかしお子さんは同様にそれを望んでいるかというところではありません。「親
に言われて仕方なくやっている」というのでは半ば強制ですから、本気で勉強に取り組むよう
にはならないでしょう。ほとんどの子どもたちは、勉強することの意義やそれが自分の人生にどう
影響するのかを知りません。またどんな職業が有望であり、そのために今何をしなければならない
かもわかっていません。それ以前に自分がどういう職業に就きたいかもわかっていないのです。
そうした漠然とした目標で本気で取り組むはずもないのです。ごく少数は「学校の先生になりたい」
「看護師になりたい」といった確固とした目標を持っている子どももいますが、そうでな
ければ、親子のコミュニケーションのなかで「今はこんな時代だから、こういう職業が将来性があ
っていいよ」「それには高校はこのへんがいいよ」「そのためには今もう少しがんばって成績を
上げなければいけないよ」と親がナビゲートしなければなりません。そして子どもが何を考え、
望んでいるかを常に知っておかないと親子の溝が深まります。

親だけが知らない「子どもが勉強しない理由」

「やっても分からないし、なかなか成績が上がらないからやる気が起きない」

「勉強に面白味が感じない」

「静かなところでじっとして座ってやることは苦痛だ」

子どもたちが勉強しない理由にこうしたことが挙げられます。これは誰にとってもごく当たり前の
ことであり、勉強とはこういう物であるのです。次回はこれらの解決策を考えていきます。

～次回につづく。